

様式（第5条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	平成 28 年度第 1 回行田市史編さん委員会
開 催 日 時	平成 29 年 3 月 29 日（水） 開会：13 時 30 分 ・ 閉会：15 時 00 分
開 催 場 所	行田市郷土博物館 会議室
出席者（委員） 氏 名	岸田昌久 津田馨 劔持和夫 向井隆健 田村均 小島孝夫 根岸茂夫 田代脩 坂本和俊
欠席者（委員） 氏 名	（なし）
事 務 局	文化財保護課長 中島洋一 市史編さん担当嘱託 久保康顕
会 議 内 容	別紙会議録のとおり
会 議 資 料	・ 当日配布のものを別添
そ の 他 必 要 事 項	

発 言 者	会 議 の 経 過 (議題・発言内容・結論等)
	* 市民憲章唱和 1. 開会 2. 開会あいさつ 中島文化財保護課長 3. 議事 事務局から、報告・説明のための会議資料を配布。 岸田昌久委員長が議事を進行。 (1) 市史編さん事業の経過報告について ① 通史普及版『行田の歴史』刊行関係 事務局(久保)より、昨年度末に普及版『行田の歴史』が刊行され、協力者や関係機関への贈呈が済んでいること、一般頒布は1冊1500円、売れ行きのよい状況である旨を報告。 ② 事務局の活動について 事務局(久保)より、考古編刊行へ向けた発掘調査記録・遺物出土記録の収集と整理をおこなっていること、普及版刊行過程で収集・作成された各種資料の整理や保管作業を継続中であること、平成23年度におこなった長久寺文書調査にともなう文書目録が終了間近である旨を報告。 編さん室に文書所在に関する情報が2件寄せられ、博物館と連携して受け入れや調査・記録をおこなったことを報告。 市史の内容紹介、また市史編さんにより得られた知見の社会還元を目的に、編さん室(編さん担当＋臨時職員)で行田市郷土博物館紀要に2つの研究報告を執筆・掲載し、編さん担当が行田市郷土博物館や公民館等で複数回の講話をおこない外部発信を試みた旨、報告。 岸田委員長 普及版『行田の歴史』が郷土博物館などに並んでいるのを見かけたが、そのほかにも多くの活動をしていることがわかった。まず普及版の刊行について、田代先生から補足をお願いしたい。 田代部会長 通常の自治体史編さんと異なり、このような普及版の前提となる通史編を作らずに変則的であったが、無事刊行することができた。原稿には監修者として私がすべて目を通し、全体調整等の総括をおこなった。活用してもらえる内容となったと思う。市外からやって来る観光客にも手に取ってもらえるものと思っている。一般の人には、資料編だけで理解するのは難しいところがあるが、その点普及版はわかりやすいと思う。 岸田委員長 変則的な刊行作業のなか普及版ができ、ありがたいと思う。どういっ

	た範囲に配布しているのか。また、学校図書館へも入れてほしいと思うが。 このほか、皆さんのご意見を願います。
事務局(中島)	刊行協力者については、市内・市外を問わず贈呈している。一般販売については、現在、市役所・郷土博物館・文化財保護課で販売をおこなっている。
向井委員	読みたくなる内容だと思う。
岸田委員長	コラムが興味深い。
事務局(中島)	近現代を中心にコラムを掲載している。
岸田委員長	普及・宣伝活動、小中学校への配布、市販などの点はどうなっているのか。熊谷市史は市販されている。
田代部会長	行田市域の通史について、大切なことは網羅している。各時代それぞれに特色があるのが行田市の歴史の特徴だと感じている。全戸配布は考えているのか。
事務局(中島)	市販については、販売マージンなどの取扱いの問題があり現状では難しいところがある。これからの課題だ。全戸配布については、今のところその予定はないが、周知・利用へ向けて各種のPRに努める。教員向けに研修センターにも置くことにしたい。小中学校へは、前回の編さん委員会でも触れたように、配布を考えている。
坂本委員	新聞宣伝は。
事務局(中島)	していないが、市報に告知・宣伝を出している。
津田委員	販促イベントがあってもいいのでは。
劔持委員	郵送への対応、ホームページでの宣伝は。
事務局(中島)	平成 26 年度には地方史研究協議会大会(熊谷市)、藩校サミット(行田市)などの催しがあり、会場へ出展し実際に販売活動をおこなった。引き続き、機会をとりえて販売促進活動をおこなうつもりだ。郵送については対応している。市のホームページでも市史編さん物の紹介をしている。 ○以上の質疑応答の後、事務局からの市史編さん事業の経過報告に

	ついて、了承がなされた。 (2)資料編『考古』の刊行について 事務局中島より、以下の説明をおこなった。 ・考古分野は旧石器時代から中世・近世までを含むことから、そうした広範囲をカバーできるよう5人の専門調査員を配置したこと、および各専門調査員の選定理由・役割を説明。 ・報告書を作成中の遺跡もあるので、考古編編さんの延期を願いたい旨、説明。 ・地層が特殊で容易には発掘が進まない面があり、また埋没が激しいことから地表に痕跡を残さず気づきにくい古墳もある。このことから詳しい地質調査をしたい。レーダー探査が有効で、取り入れる必要がある。これにより新たな知見があるはずの旨、説明。 これまでの報告書に、地質調査等の新しい手法を取り入れた新調査の成果を加えて考古編を作る考えであること、理解を助けるようビジュアル面にも考慮した内容を考えている旨、説明。
岸田委員長	考古部会長の坂本さんに補足をお願いしたい。
坂本部会長	レーダー探査による地質調査はとても有効だ。行田市域は地層の状況から発掘のしかたが難しく、レーダー探査を併用することで調査の正確性を高めることができる。そして、そうした調査に加え、これまでの見解も正確に再検討したい。火山灰の堆積状況や葬送の方法を詳しく検討すると、埼玉古墳群、また鉄剣が出土した稲荷山古墳への知見は改められるべき点があろう。この編さん事業は、郷土愛ばかりでなく、真実を提示する機会となる。うまく整理したい。
岸田委員長	まだ正確にはわかっていないところがあるのですね。
坂本部会長	被葬者の居住地もわからない。現在の地表の島畑にあたるところなどを考えてもよいかもしれず、いずれにしろ、地質調査を含めて詳しい調査・検討がまたれる。
田代部会長	新知見を打ち出すからには叙述が多くなると思われるが、通史のようなスタイルになるのか。
事務局(中島)	冒頭に総論をおくかたちを考えている。熊谷市史のスタイルが参考になろうかと思う。
坂本部会長	資料編であるからには、資料を掲出するという基本スタイルは踏襲するつもりだ。

劔持委員	全体のボリュームは。
事務局(中島)	最適な分量を検討中である。
小島部会長	民俗編において、自然環境に触れることができなかった反省がある。考古編の地質調査にかかわって、自然環境にかかわる行田市史を1冊出すことはできないか。近年議論が盛んとなっている防災行政にも関係して、意義は決して小さくはないはずだ。
坂本部会長	いろいろ見ていくと、噴砂の状況・問題もある。たしかに、薄い冊子でも良いから出すことができればよいと思う。
事務局(中島)	地質調査を近世・近代にまで広げてカバーするのは、現状の予算や編さん体制上、難しいところがあり、ここでは即答できない。そのような自然環境克服の過程について知ることは重要であると認識している。
小島部会長	自然環境編の刊行について、重ねて検討を願いたい。
岸田委員長	事務局側には、ぜひ検討を。
	○以上の質疑応答の後、事務局からの考古編の内容、および刊行スケジュール説明・報告について、了承がなされた。
	(3)今後の市史編さん計画について ①資料編『考古』の刊行 中島課長より、新たな計画に基づき編さんを進める旨を説明。
	②これまでの編さん収集資料等の整理 中島課長より、編さん収集資料等の整理・保存、活用については行田市史編さんにおける今後の重要課題であり、検討を重ねつつ取り組みを進める旨、また以上のような今後の編さん事業を円滑に進めるべく、臨時職員の増員も含めて市史編さん体制の充実を図っていく旨、説明。
岸田委員長	《議事終了》 普及版の普及および PR、そして活用に力を入れていただきたい。坂本部会長を中心とする考古部会がかたまった。よろしく願いたい。
	4. 閉会(あいさつ 中島課長) 以上